



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

「かじを切る」

春が来て新しい一年が始まった。春は芽吹きの子供。強く吹く風に春の訪れを知り、期待に胸を膨らませる。この風がコロナも吹き飛ばしてくれたらいいのにね。冒頭で新しい一年が始まった、と書いたけど、これは子どもも大人もみんな同じ。その年でしか経験できん一年のスタートを切った。

"人生は一度きり"。これは母の口癖でもある。私の人生の節目節目で母は私をそう言って鼓舞した。やから私は何か迷ったときには頭の中でこれをグルグルと再生する。出す答えはほとんどが"挑戦する"だ。失敗なんて大したことじゃない。失敗を恐れて何もできず、何も得られず過ごす時間の方がよっぽど怖い。命には限りがあるし、私の人生のかじを切るのは私でしかない。そういえば中島みゆきの歌に"その船を漕いでゆけ/おまえの手で漕いでゆけ/おまえが消えて喜ぶ者に/おまえのオールをまかせるな"ってあったけど、まさにそれ。自分の決断で、自分の手で、自分の行きたい方へ進む。私もまた新しい挑戦をこれからやっつけていこうと思つとると。失敗するのが普通で、うまくいったら万々歳!それくらいの気持ちで一度きりの人生、自分の手でかじを切っていこう。

(テノヒラkiku)



本日! 海日和!! vol.125

「人気 No.1」

3月号でムチカラマツというむちのようなサンゴの仲間を紹介した。その続きで、今月号も少し変わったサンゴを紹介したい。

その名もネジレカラマツ。ねじれたカラマツの仲間ということで名前が付いた。安易な名前だと思ってしまうが、「名は体を表す」の言葉どおり、分かりやすいといえば分かりやすい名前である。

ネジレカラマツは、水深 20 メートルより深い所に生息している珍しいサンゴだ。生きている時は鮮やかな色をしているが、骨格は真っ黒で、表面にはとげが生えている。長さは 30 センチメートル程度で、ねじれている部分を伸ばすと 1 メートルを超えるだろう。なんでねじれ



【ネジレカラマツと骨格】

ているのか正確な理由は分かっていない。

子どもたちに海の生き物の話をする機会を頂いた時、興味を持ったサンゴを選ばせると、ネジレカラマツはいつも上位にくる。子どもたちもねじれたサンゴに興味津々である。

(撮影地：愛南町)

愛南サンゴを守る会 西尾知照 ともてる